

# 建築物石綿含有建材調査者講習 修了試験問題例（2024年度）

試験形式：問題は40問 4択マークシート式

合格基準：問題40問のうち、60%以上正解すること

※出題は、当時の法的根拠・テキストに基づいており、法改正等により一部が現在の判断と異なる場合があります。

[例題1] 次の記述について、誤っているものはどれか

1. 石綿障害予防規則における「石綿等」とは、石綿およびこれをその重量の0.1%を超えて含有するものをいう。
2. 今まで世界で使用されてきた石綿の約9割以上であるクリソタイルは、角閃石族の石綿である。
3. 石綿とは繊維状けい酸塩鉱物でアモサイトやクロシドライト、トレモライト、アクチノライト、クリソタイル、アンソフィライトの6種類である。
4. 石綿は耐熱性、耐磨耗性、耐薬品性、絶縁性などに優れており、価格も安いため建材、工業製品、民生用として多く使用されてきた。

【解答】2 角閃石族ではなく、蛇紋石族である

[例題2] 次の記述について、誤っているものはどれか

1. 大気汚染防止法では、レベル1、レベル2、レベル3の石綿含有建材を「特定建築材料」としている。
2. 大気汚染防止法では、事前調査結果等の掲示板の大きさは日本産業規格A3判以上と規定している。
3. 廃棄物処理法では、レベル1、レベル2の石綿含有廃材を「廃石綿等（特別管理産業廃棄物）」とし、レベル3の石綿含有成形板等の廃材を「石綿含有産業廃棄物」と位置づけている。
4. 建築基準法では、建築物及び工作物の増改築時等に0.1重量%を超える石綿を含有する建築材料の囲い込みの措置を義務づけている。

【解答】4 建築材料の囲い込みの措置ではなく、増改築時における除去を義務づけている

[例題3] 目視調査に関する次の記述について、誤っているものはどれか

1. 石綿等の湿潤化と同等の措置の一つとして、除じん性能を有する電動工具の使用等を義務付ける。
2. 現場では、着替える場所等が無い場合もあるが、調査時の作業着で通勤してはならない。
3. 呼吸用保護具はRS-3またはRL-3の取替式防じんマスク以上の性能を有するものを使用する。
4. 建築の基礎知識として建築物の一般的な構造や建築基準法等の法制度等に関する知識は、調査者の資格を持つていれば必要としない。

【解答】4 調査者の資格を持っていても基礎的な法制度等に関する知識は必要。

[例題4] 事前調査結果報告書に関する次の記述について、誤っているものはどれか

1. 偏光顕微鏡法では、非意図的に混入したアスベスト（原料中の不純物など）の定性分析や建築用仕上塗材のような複合・複層建材の試料の素材別・層別の定性分析ができる。
2. 偏光顕微鏡による定性分析では、必要に応じ、灰化、酸処理、浮遊や沈降により試料を調整する。
3. X線回折装置による定量分析の際、基底標準吸収補正法では、国内の分析機関のほとんどは銅板を基底標準としている。
4. 偏光顕微鏡法で「検出」または「0.1-5%」の表記があった場合、既に確認済である場合を除き、定性分析の結果のみで「石綿が0.1%を超えている」として扱う「みなし措置」を実施するか、石綿が0.1%を超えているか否かを明確にするために「定量分析」を実施するかを発注者に確認する。

【解答】3 銅板ではなく、亜鉛板を基底標準としている